

# どんぐり展・熊野古道展

期間：2002年10月4日～11月30日

場所：関空交流館

共催：貝塚市社会教育課

協力：小垣廣次氏（植物画）、大阪府立大学農学部昆虫学研究室（昆虫標本）

内容：どんぐりのなる木の写真と標本の展示、どんぐりを利用する昆虫の標本



展示会場 1



展示会場 2



小垣廣次氏の植物画

1年成りどんぐり		殻斗	
春夏秋冬春夏秋 開花 → 実	常緑樹	アラカシ シラカシ イチイガシ	
	落葉樹	コナラ ミズナラ ナラガシワ	
		カシワ	
		クリ	
		ブナ イヌブナ	
	2年成りどんぐり		殻斗
春夏秋冬春夏秋 開花 → ほとんど変化なし → 成長しはじめる → 実	常緑樹	ウバメガシ シリブカガシ マテバシイ	
		ツブラジイ スダジイ	
		アカガシ ツクバネガシ ウラジログシ ハナガガシ	
	落葉樹	アベマキ クヌギ	

どんぐりと殻斗の説明

### 南近義神社の社寺林

南近義神社にはまとまった面積の社寺林があり、昔の植生が残り、自然のままに変遷した森をそこに見ることができます。30年前の植物調査では、クロマツ・リュウキュウハゼ・ヤマザクラなどが優占種で、とくにクロマツが多くみられました。その後、クスノキなどが大きく育ち、陽樹林を構成していたクロマツ・リュウキュウハゼ・ヤマザクラは衰退してしまいました。30年前には記録されていたミミズバイ（はいのき科）も残念ながら今は見られません。現在とくに大きい木は、クスノキ・ヤマモモ・クロガネモチで、中木としては、大阪府南部の近海地に多いカクレミノ・ヤブニッケイ・ヤブツバキ・ヒメユズリハがあり、とくにヒメユズリハは珍しいものです。道路側から見た、マント群落は中が透けて、やや乾燥気味です。大小さまざまな木や、下草としての草本、堆積した落ち葉などが昆虫や微生物を育み、森全体の自然生態系が維持されています。南近義神社の周りは市街化が進み、「鎮守の森」の風格を残すこの社寺林は、市街地に残された貴重な森・緑として重要で、大切に残してゆきたい遺産です。

社会教育課が担当した熊野古道展の主な展示物は、熊野街道半田一里塚・橋本共同墓地・積善寺城跡・丸山古墳・南近義神社の社寺林などの写真、および吉祥園寺縁起（コピー）です。また、2002年10月26日には、貝塚市内で残っている熊野古道の歴史と自然をめぐる行事を社会教育課と共同で行いました。

（担当：白木 江都子・湯浅 幸子）